

## ニュージーランド、酪農乳業の持続可能性への取り組み

### 挑戦のため酪農家は立ち上がる

二酸化炭素などの GHG (温室効果ガス) 排出量削減の取り組みは、2030 年を目標に進められている国連 SDGs にも関連しており、世界中で様々な取り組みが行われている。「食」の分野においても環境負荷の少ない食品への関心が高まっており、酪農に対する社会的な圧力は大きい(\*1)。世界でも有数の酪農生産国であるニュージーランドでは、同国における GHG 排出量の約 4 分の 1 が酪農に起因していることから、酪農生産者団体であるデーリーNZ (dairy NZ) が、酪農産業における GHG 排出量削減目標を設定し、世界で最も炭素効率の高い酪農の地位を維持するために多くの役割を果たしている(\*2)。デーリーNZ の Tim Mackle (ティム・マックル) CEO は昨年 10 月 12 日、新たなキャンペーン、“Rise and Shine (立ち上がり、輝く)”を開始するにあたり、酪農乳業の物語(ストーリー)を国民と共有することが大切だと語った。ニュージーランドの重要産業である酪農を持続的に発展させていくためには、全国民の理解と協力を求める必要があるからだ。以下では、デーリーNZ を中心に行われている様々な取り組みを紹介する。

#### ビジョンは明確である

2018 年 11 月 1 日、デーリーNZ は“The Vision is Clear (ビジョンは明確である)”というキャンペーンを開始した。このキャンペーンは、一般の人々からの支持を得たいという酪農家の願望から生まれた(\*3)。酪農家は、生乳や牛乳乳製品の生産が、水質と環境に影響を与えることから、水質の改善を行うためには国民の関心を高めるとともに、全国民の支援と理解が必要との認識から、デーリーNZ に対しこのキャンペーンへの支援を要請した。また 2018 年 11 月 30 日付の Farmers Weekly 誌によると、2 年間に及ぶ The Vision is Clear キャンペーンによって酪農家に対する肯定的な認識が前年の 58% から 62% に増加したことが最新の国勢調査でも明らかになっており、酪農家の環境改善に対する活動と努力が国民に受け入れられつつあるとしている(\*4)。

またカーボンフットプリント(商品やサービスのライフサイクル全体を通して排出される GHG 排出量を二酸化炭素に換算したものを)削減することも、持続可能な生乳生産にとって

重要な課題であることから、収益性を維持しながらカーボンフットプリントを削減するための実践的な解決策を模索するために、幅広い研究に投資している。更に尿中の窒素量が少ない牛を繁殖させることを目的とし、7 年間のプロジェクトを開始した(\*5)。また一次産業省(MPI: Ministry for Primary Industries)と協力し、マイコプラズマ細菌の根絶にも力を入れている(\*6)。

- 1) <https://www.alic.go.jp/content/001167487.pdf> (ALIC 海外情報)
- 2) <https://www.dairynz.co.nz/environment/climate-change/>
- 3) <https://www.nzherald.co.nz/the-country/news/the-vision-is-clear-dairynzs-new-waterways-movement/TBOSVTZTRZ2XKZHEFY74GEMS4M/> Vision is Clear キャンペーンのスタートに際して
- 4) <https://farmersweekly.co.nz/#> キーワード” challenges and opportunities for dairy”

- 5) <https://www.nzherald.co.nz/brand-insight/breeding-cattle-with-better-urine/YK4X5M6SYHMRFSMBHYFITPZA/ZI/> 尿中窒素量の少ない乳牛の繁殖
- 6) <https://www.mpi.govt.nz/biosecurity/mycoplasma-bovis/what-is-mycoplasma-bovis/>

### 経済への貢献と新たなキャンペーン

ニュージーランドの生乳生産量は、全世界の約 2% を占めており、乳製品の世界最大の輸出国である。デーリーNZ では、ニュージーランドの牛乳 1 杯の GHG 排出量は、世界平均と比較して半分未満しかないと発表しており、キウイ(ニュージーランド)の酪農家は世界で最も効率の高い牛乳生産者であるとしている(\*7)。

デーリーNZ のティム・マックル CEO は、「乳製品はニュージーランド最大の輸出収入源であり、2020 年には 200 億ドル近くの価値を生んだ。また乳製品は世界中の 140 を超える国・地域の市場に輸出されている。また Covid-19 の影響からニュージーランドの経済を再生させるためにも重要な役割を果たす」としており、2020 年 10 月 12 日、新たなキャンペーン“Rise and Shine”をスタートするにあたり、酪農産業の歩みと乳製品のニュージーランド経済に対する貢献度について以下のようにまとめ、国民への理解を呼びかけている。

- 酪農産業はニュージーランド最大の輸出産業で、年間約 200 億ドルの価値を生んでいる
- ニュージーランドの酪農部門は約 50,000 人に直接雇用を提供している
- 酪農産業はニュージーランド経済の中で最も国際市場にアクセスした産業であり、その生産量のほぼ 90% が輸出され、残り

の 10% は国内消費されている

- 酪農産業は、ニュージーランドの全産業の 3 分の 1 を占め、地域経済に大きな貢献をしている

ニュージーランド国民は皆、酪農産業がもたらす経済的利益を知っているが、同時に環境負荷を削減するために酪農家達が日々行動を起こすことも重要であるとの認識を持っている。”Rise and Shine”キャンペーンは、ニュージーランドの酪農家が世界で最も持続可能な酪農家である理由を伝えるキャンペーンで、国民に対し自国酪農の重要性と酪農家に対する信頼度を高めるためのプロジェクトとしてスタートした(\*8)。

- 7) <https://www.google.com/url?q=https://www.stuff.co.nz/business/farming/agribusiness/123162197/who-are-the-most-emissions-efficient-milk-producers-in-the-world&source=gmail&ust=160774125096000&usg=AFQjCNERUgG1Aht-HbAiARPtQjI4RoIjLQ>
- 8) <https://www.dairytomorrow.co.nz/rise-and-shine/about-rise-and-shine/>

### 酪農を支援する様々なプロジェクト

またデーリーNZ は、StepChange (段階を変化) というプロジェクトを通じ、酪農家に対し、日々進歩する酪農技術情報、リソース等のサポートを提供し、水質の改善と GHG 排出量の削減への貢献、ならびに 2025 年までに酪農家の収益が改善されるよう支援を行っている。現在 StepChange では以下の目標が掲げられている。

- 国・地域の政策基準、特に気候変動と淡

水を対象とする基準の達成

- 持続可能性において世界をリードする農業であり、国際的な地位を維持する
- 消費者の期待に応える

このプロジェクトでは 2020 年 10 月から 12 月にかけて自身の酪農場から排出される GHG をはじめ、現在の状況を可視化し、目標を設定するために様々なイベントが計画された(\*9)。

- 9) <https://www.dairynz.co.nz/environment/step-change/>

## 酪農の明日

ニュージーランドで現在進行する酪農関係のキャンペーン、プロジェクトの根幹にあるのが”dairy tomorrow/The future of New Zealand Dairying. (酪農の明日／ニュージーランド酪農の未来)”の戦略である(\*10、\*11)。

この戦略は、現在、そして将来にわたり酪農乳業セクターが直面する課題に焦点を当てたものであり、次の 6 つの目標を達成することを掲げている。

- 未来の世代のために環境を守り育む
- 世界で最も競争力があり回復力のある酪農ビジネスを構築する
- 最高品質で最も栄養価値のある乳製品を生産する
- 農場での家畜飼養で世界をリードする
- ニュージーランドで最も才能のある労働力のために素晴らしい職場を構築する
- 活気に満ちた豊かなコミュニティの成長を支援する

1882 年、ニュージーランドから英国に向けて初めてバターが出荷されて以来、起業家精神、協力、そして「やれば出来る！」の精神が

ニュージーランドの酪農家の中心にあった。その精神がニュージーランド酪農を今日の世界的リーダーにさせ、今後数十年にわたり我々が設定する野心的な目標を支えている。多くの変化があったが、ニュージーランドの酪農は依然として何千もの小規模な家族経営体で構成されており、その中心には牧草地がある。酪農セクターは、毎日生産されるすべての生乳が集荷され処理加工されるという、すべての酪農家への約束に基づいており、常に 8000 万リットル以上の生乳を処理可能な世界をリードする処理加工能力、さらに世界 100 か国以上の消費者にニュージーランドの乳製品を安全かつ効率的に届けるための世界規模の物流網が必要である。

またニュージーランドの酪農業界は、輸出への依存度が高く、世界のどの乳業会社よりも世界的な競合、市場の変動、不確実性にさらされているため、他のビジネスと同様、高い収益性が求められる。

過去 15 年間にわたりニュージーランドの酪農乳業セクターはより持続可能であるために重要な取り組みを進めてきた。しかしながら道はまだ半ばであり、酪農家、業界のリーダーおよびステークホルダーはこれからも多くの挑戦と問題の解決をしていく必要がある。

これからも長期的な国民間における対話を通じて、農場と食料システム、環境、経済、社会、文化において望ましいバランスを達成し、世界中で良く知られる自然で高品質な製品を提供し続けるための“dairy tomorrow”戦略によって、ニュージーランドが将来にわたり変化を乗り越え、適応し、世界で最も持続可能な牛乳生産者の 1 つとしての地位を維持し続ける。

- 10) <https://www.dairytomorrow.co.nz/strate>

gy/

- 11) <https://www.j-milk.jp/jidf/wp-content/uploads/2019/08/j-IDF-Dairy-Sustainability-Outlook-2019.pdf> ( IDF 「酪農乳業の持続可能性見通し」第 2 号 仮訳、国際酪農連盟日本国内委員会)

## おわりに

酪農はニュージーランドにとって非常に重要な産業であり、それゆえに昨今の環境保全、GHG 排出量削減については国を挙げて対応している。しかし、その反面で、酪農家に対する多くの支援に対しては国民からの風当たりも強い。

スタート間もない”Rise and Shine”キャンペーンからスタート地点にある”dairy tomorrow”まで、時間を遡るように紹介したが、これらの成果として、今年はコロナ禍の中、国民の酪農への関心は高まっており、”GoDairy”キャンペーン等の効果が出てきているようだ。

また本稿では触れていないが、ニュージーランド政府は先住民族のマオリ族と協力し、GHG 排出量削減目標を達成し、将来の世代のために持続可能な食料生産を可能にするため “He Waka Eke Noa”(「私たちは同じ船(ワカ)に乗った仲間です」または「未来を私たちの手に」)パートナーシップを開始した(\*12、\*13、\*14)。ニュージーランドの第一次産業は同国の先住民族であるマオリ族との共存が必須であり、2025 年 1 月まで続くこの取り組みは注目されているようだ。

このように内容の重複する様々なプロジェクトやキャンペーンを行うことにより、一次産業とは直接の繋がりのない全ての国民にも理解を求め、酪農家に対しては、国との一体感と安心感を与えることにより成果を高めることを期待しているのかもしれない。

最後に本編をまとめるにあたり、駐日ニュージーランド大使館の協力を得たことに感謝する。

- 12) <https://www.mfe.govt.nz/climate-change/he-waka-eke-noa-primary-sector-climate-change-action-partnership>
- 13) <https://twitter.com/purenzinjapan/status/1247359795729842177> (へ・ワカ・エケ・ノアの意味)
- 14) <https://www.j-milk.jp/jidf/wp-content/uploads/2020/09/IDF-Dairy-Sustainability-Outlook-2020-LR-1-J.pdf> (IDF「酪農乳業の持続可能性見通し」第 3 号仮訳、国際酪農連盟日本国内委員会)  
(資料閲覧時期:10 月 20 日～12 月 20 日)  
(Jミルク 国際グループ 御手洗 伸)